

SYMPHONY

 TOKYO
SYMPHONY
ORCHESTRA
Lorenzo VIOTTI, Music Director


ANNIVERSARY

NO.151

SAT. 8TH AUGUST
TOKYO OPERA CITY SERIES

NO.744

SAT. 22ND AUGUST
SUBSCRIPTION CONCERT

NO.106

SUN. 23RD AUGUST
KAWASAKI SUBSCRIPTION CONCERT

2026
AUGUST

8

音楽監督 ロレンツォ・ヴィオッティ
桂冠指揮者 ユベール・スダーン
名誉客演指揮者 大友直人
永久名誉音楽監督 秋山和慶 ◆
永久名誉指揮者 アルヴィド・ヤンソンス ◆
上田 仁 ◆
遠山信二 ◆

名誉コンサートマスター 大谷康子

第1コンサートマスター 小川ニキティングレブ
景山昌太郎
小林竜成

コンサートマスター 吉江美桜
田尻 順

会 長 澤田秀雄
理事長 岡崎哲也
副理事長 平澤 創
依田 異
専務理事 廣岡克隆
理 事 阿部武彦 竹中平蔵
池辺晋一郎 永山 治
伊藤美樹 夏野 剛
大橋 博 増岡聡一郎
コシノジェンコ 森 京子
菅谷貴子 若本博隆
監 事 寺西基之
渡邊芳樹
評議員長 梅沢一彦
評議員 穴水 孝 星 久人
鷺海量明 森川 智
片山泰輔 芳野まい
加藤英輔
特別顧問 飯島延浩 福田紀彦
窪田雅己
永久名誉顧問 金山茂人 ◆

1st Violins

○木村正貴
○堀内幸子
○森岡ゆりあ
小川敦子
立岡百合恵
土屋杏子
中村楓子
水谷有里
吉川万理

2nd Violins

○清水泰明
○服部亜矢子
○加藤まな
○福留史紘
河裾あずさ
小山あずさ
鈴木浩司
吉田みのり
阿部真弓
坂井みどり

Violas

○青木篤子
○武生直子
○西村真紀
○多井千洋
○山廣みほ
新井瑞穂
小西応興
鈴木まり奈

Cellos

☆伊藤文嗣
○川井真由美
内山剛博
蟹江慶行 ●
樋口泰世
福岡茉莉子
渡邊ゆかり

Double Basses

□助川 龍
○コーディネーターズ・ブーム
○北村一平
○久松かず
内岡沙月
安田修平
渡邊淳子

Flutes

□相澤政宏
○竹山 愛
○知久 翔*

Flute & Piccolo

濱崎麻里子

Oboes

○荒 給理子
○荒木良太
浦脇健太

Clarinets

○エマニエル・スズー
○吉野亜希菜
近藤千花子
務川広貴

Bassoons

○福士マリ子
○福井 蔵
坂井由佳
前関祐紀

Horns

○上間善之
白井有琳
藤田麻理絵
津守隆宏*

Trumpets

○澤田真人
○ローリー ディラン
野沢岳史 ●
松山 萌
早野舞花*

Trombones

○大馬直人
○鳥塚心輔
住川佳祐

Bass Trombone

藤井良太

Tuba

近藤陽一

Timpani & Percussions

○清水 太
○山村雄大
武山芳史
綱川淳美

Harp

渡辺沙羅

Librarians

林 知也
カーン日和*

Stage Managers

西岡理佐
山本 聡

栄誉団員

井伊 準 ◆

楽団長

廣岡克隆

編成局シニアディレクター

藤原 真

編成局

パーソネルマネージャー

謝名元 民

楽団委員

小西応興(議長)
浦脇健太(書記)
清水 太
清水泰明
鈴木浩司
綱川淳美

事務室長

荒井宣之

事務局

□高瀬 緑
市川萌都
伊藤瑛海
榎 日向
小川博司
桐原美砂
後藤絢音
長久保宏太郎
三橋真琴
山田道子
山本未央子
□梶川純子
澤戸雅美*

名誉団員

深江泰輔 ◆
三木謙雄 ◆

団 友

大野佳和
安藤史子
池田 肇
石川晴弘世
今村和弘
岩澤淳子
土原規照
土原末莉
内田彬雄
内田乃例子
宇都 実
梅田 学
大隅雅人
大塚正男
大生廣男
大和田浩明
大和ルース
荻野 昇
奥田昌史
音川健二
加藤谷直美
笠原勝二
甲斐さち
加藤幸子
加藤啓吾
金澤 茂
久保田一穂
熊谷仁士
黄原亮司
小林照雄
小林利彰
小林亮子
阪本正彦
佐川聖二
佐々木真
塩谷しずか
篠崎 隆
菅野明彦
杉浦直基
鈴木一輝
曾根敦子
高野成之
武田英昭
田中貴輔
千村雅信
十亀正司
黒山 佑
永井聖乃
中塚和良
中塚博則
中山 智
新澤義美
西依智子
西脇秀澄
野村貴澄
熊崎隆弘
原田美保子
日野 奏
ベアテン・ボーマン
前田健一郎
松崎里絵
丸山正昭
三浦正信
宮原祐子
宮本直樹
宮本 睦
森みさ子
諸橋健久
渡辺 功
渡辺哲郎
渡辺裕子

演奏会でのお願い

Concert Manner Guide



チケットに記載された 座席でご鑑賞ください

チケットに記載されている座席番号にのみ有効です。
座席移動はご遠慮ください。

Please be seated at the seat number designated on your ticket.



開演前に電子機器の 電源はOFFに

マナーモードにしても振動する音が響きますので、電源は必ず切るようにしましょう。

Switch OFF your mobile telephones, wristwatch alarms and all other noise-emitting electronic devices before the performance begins.



補聴器の確認を

ご使用のお客様は、きちんと装着されているか今一度お確かめください。

For our guests who wear hearing aid devices, please check that your device is suitably set before the performance begins.



周囲の視界を遮るような 行為はやめましょう

身を持ち出しての鑑賞や、つばの広い／高さのある帽子は脱いでご鑑賞ください。リズムをとる行為もおやめください。

Please refrain from wearing hats or rhythmically swaying in a way which could disturb or obstruct the view of those seated near you.



開演後の入場を 制限させていただきます

開演後のご入場は制限させていただきます。

You will not be permitted to enter the concert hall during a performance.



演奏中の飲食は ご遠慮ください

Refrain from eating and drinking during the performance.



演奏中はお静かに

手荷物につけている鈴やビニール袋等は音を立てないようにご配慮下さい。演奏中の私語、プログラムやスコア等紙類をめくる音、かばんのチャック等をさわる音も思っている以上に場内に響きます。

Please be silent during the performance.



咳、くしゃみをする際は ハンカチで押さえましょう

ハンカチをあてがうことで音量はかなり軽減されます。

Please use a handkerchief to help suppress the noise from any coughing or sneezing.



曲の余韻も 演奏のうちです

音が消えゆく余韻を十分に感じてから拍手をお送りください。

The lingering sounds and moments are part of the performance. Please hold your applause or shouting your appreciation until the actual end of the performance.



カーテンコールを除いて、ホール内での録音・録画・写真撮影は禁止です

終演後のカーテンコールの撮影は、自席にご着席のまま、周りのお客様へご配慮いただきますようお願いいたします。

※前半終了時、アンコール演奏中は撮影いただけません。※スマートフォン、携帯電話、コンパクトデジタルカメラ以外の撮影、自撮り棒の使用、フラッシュの使用、目線より高い位置での撮影はご遠慮ください。

Photography, filming and recording are prohibited, but it is permitted to film the curtain call after the concert. Photography is not permitted at the end of the first half or during encore performances. Please refrain from taking pictures with cameras other than smartphones and mobile phones, using selfie sticks, using flash, and taking pictures at eye level or higher.

8/8

SAT

東京オペラシティシリーズ 第151回

2026年8月8日(土) 14:00 東京オペラシティコンサートホール

Tokyo Opera City Series No.151

Sat. 8th August 2026, 14:00 Tokyo Opera City Concert Hall

デイヴィッド・レイランド[指揮]

David REILAND, Conductor

小川ニキティンブレ[コンサートマスター]

OGAWA Nikitingleb, Concertmaster

モーツァルト: 歌劇「フィガロの結婚」
K.492から序曲(5')

MOZART: Le Nozze di Figaro – Overture (5')

モーツァルト: 交響曲 第29番 イ長調
K.201 (28')MOZART: Symphony No.29 in A major
K.201 (28')I. アレグロ・モデラート
II. アンダンテ
III. メヌエット
IV. アレグロ・コン・スピリトI. Allegro moderato
II. Andante
III. Menuetto
IV. Allegro con spirito

休憩(20')

Intermission(20')

モーツァルト: 交響曲 第40番 ト短調
K.550 (30')MOZART: Symphony No.40 in G minor
K.550 (30')I. モルト・アレグロ
II. アンダンテ
III. メヌエット: アレグレット
IV. アレグロ・アッサイI. Molto allegro
II. Andante
III. Menuetto: Allegretto
IV. Allegro assai

●主催/公益財団法人 東京交響楽団

●助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

楽曲解説はP.5をご覧ください

アンケート
ご協力をお願い



©BAKI

David REILAND

Conductor

デイヴィッド・
レイランド

[指揮]

ベルギー出身。2018年からフランス国立メス管(旧フランス国立ロレーヌ管)音楽監督。デュッセルドルフ響「シューマン・ゲスト」、ローザンヌ・シンフォニエッタ首席客演指揮者も務めている。2021~25年には、韓国国立響の音楽監督として活躍した。

これまでにベルギー国立管、パリ室内管、トゥールーズ・キャピトル国立管、スイス・ロマン管、ゲヴァントハウス管、都響、大阪フィル、京響などに定期的に客演。オペラでは、欧州各地や韓国で《魔笛》《コジ・ファン・トゥッテ》《フィデリオ》《トスカ》《椿姫》《ホフマン物語》などを指揮している。モーツァルトの指揮に定評があるほか、現代作品や知られざる作品にも視野を拡げ、そのレパートリーは多岐にわたる。

ブリュッセル王立音楽院、パリのエコール・ノルマル、ザルツブルクのモーツァルトウム大学で学び、ブーレーズ、ジンマン、ハイティンク、パヌラ、ヤンソンズらに師事。エイジ・オブ・エンライトメント管の副指揮者として、ラトルやノリントンらと活動した。2023年からリエージュ王立音楽院で後進の指導にあたっている。

David Reiland currently serves as Music Director of the Orchestre National de Metz Grand Est as well as the first guest conductor of the Sinfonietta Lausanne and "Schumann Guest" of the Düsseldorf Symphony Orchestra. From 2021 to 2025, he was Music Director of the Korean National Symphony Orchestra. In recent years, he has worked with the Belgian National Orchestra, Orchestre National du Capitole de Toulouse, Orchestre de la Suisse Romande, Gewandhausorchester Leipzig, Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra, Osaka Philharmonic Orchestra, City of Kyoto Symphony Orchestra, among others. In opera, he regularly conducts at the opera houses around Europe and Korea.

With his preference for classical composers, his openness to contemporary music and his commitment to rediscovering forgotten composers, he has set extraordinary programmatic territories.

Reiland studied conducting with Pierre Boulez, David Zinmann, Bernard Haitink, Jorma Panula and Mariss Jansons. His first significant position as Assistant Conductor at the Orchestra of the Age of Enlightenment gave him opportunities to work with Sir Simon Rattle and Sir Roger Norrington.

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)

歌劇「フィガロの結婚」K.492から序曲

1781年のウィーン移住後、同地の宮廷オペラで初めてヴォルフガング・アマデウス[アマデー]・モーツァルト(1756~91)が上演したイタリア語オペラが《フィガロの結婚》である。1785年の秋に作曲が始まり、『全自作品目録』への記入は「1786年4月29日」付。1786年5月1日にウィーン宮廷劇場のブルク劇場で初演を迎えた。台本を担当したのは、後の《ドン・ジョヴァンニ》(1787年)や《コジ・ファン・トゥッテ》(1790年)でも共同制作をすることとなるウィーン宮廷詩人ロレンツォ・ダ・ポンテ。原作はフランスの作家ボーマルシェの同名戯曲である。

宮中の女性に、今風に言えばセクハラやパワハラを繰り返す伯爵に対し、徹底抗戦をするフィガロとスザンナ、そして伯爵夫人。この対立は最終的に伯爵が謝罪して大団円を迎える。権力者の横暴に起因する醜聞は宮中の噂にならないはずもないが、この作品の序曲(4/4のプレスト。『全自作品目録』ではアレグロ・アッサイ)はあたかもヒソヒソと噂話をしているかのようなピアノッシモのユニゾンで始まる。この極めて異例な冒頭のおかげで、オペラ開幕を告げるファンファーレ風なフレーズ——18世紀の序曲では冒頭に置かれるのが定番——は後回しになるが、むしろ華やかさへの転換の期待は余計に高まるであろう。その後、これまた弱音が主体となる2つの副次主題が提示されると、短い推移的フレーズを挟んで、再

現部へ。自筆総譜を見ると、再現部の前に二短調の中間部(《後宮からの誘拐》K.384(1782年)の序曲を思い起こさせる)を挿入するつもりであったことがわかる。これが破棄されたおかげで、快速テンポでさらりと走り抜け、徐々に音量を上げて開幕の喜びを高めるコードで締めくくる小気味よい序曲となったのである。

安田和信 Text by YASUDA Kazunobu

作曲:1785年の秋に開始。『全自作品目録』への記入は「1786年4月29日」

初演:1786年5月1日、ウィーン宮廷劇場

編成:フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦5部

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)

交響曲 第29番 イ長調 K.201

モーツァルトの交響曲創作は1760年代半ばからロンドン、ウィーン等の旅先で始められた後、故郷ザルツブルクでの創作は1771年の年末、第2回イタリア旅行からの帰郷後に本格化する。その結果、70年代半ばまでに約20曲もの作品(イ長調K.114から二長調K.202まで)が生まれた。K.201の自筆総譜に「1774年4月6日」と読める日付が末梢線に消されており、現在では自筆総譜の紙の透かし模様の調査から1775年5月を成立の下限とすることもある。

この時期の交響曲はどれも作曲目的は分かっていないが、大司教宮廷での演奏会で披露されたことはあり得ただろう。多様な作品が並ぶ中、4楽章構成、オブリガート管楽器を当時の標準ともいえるオーボエとホルン各2声とした点で、K.201はオーソドックスな外形を備えている。

しかしながら「外形」とは裏腹に、第1楽章(4/4のアレグロ・モデラート)は、作曲者の交響曲では3曲しか事例がない弦楽合奏のみの弱音で開始。主旋律が第1ヴァイオリンに置かれているのは間違いないが、第2ヴァイオリン以下も「伴奏」で済まされない動きを見せる。こうした「立体化」はトゥッティですぐに反復される際に主旋律をヴァイオリン、ヴィオラとバスが模倣風に扱う部分にも継承。コードでは模倣にホルンまでが加えられ、「立体化」は頂点を迎える。第2楽章(2/4のアンダンテ、二長調)は弱音器付きヴァイオ

リン声部が象徴するように穏やかな表情を湛えた楽章だが、主旋律以外にも色々な旋律が聞こえてくる。ほぼ弱音に終始した楽章を締めくくるコードでは管楽器のみ、そして弱音器を外したヴァイオリンを含むトゥッティによる主要主題の柔らかい響きが現れる。第3楽章に置かれるメヌエット楽章は第1楽章以来の主調が復帰するため、フォルテのトゥッティで始めることが少なくないが、K.201は2声のヴァイオリンのみの部分にトゥッティが応えることで開始。ホ長調のトリオは穏やかさの中で意外性のあるフォルテや振れるような半音階が緊張感をもたらす。第1、2楽章と同じく独立したコードを伴うソナタ形式楽章である第4楽章(6/8のアレグロ・コン・スピリート)は全曲で初めてテンションの高い主要主題で滑り出す。この主題に含まれる楽想や動機は楽章の随所で顔を出す。

安田和信 Text by YASUDA Kazunobu

作曲:自筆総譜に「1774年4月6日」と読める日付があるが、抹消されている。自筆総譜の紙の透かし模様の調査によれば成立の下限は1775年5月

初演:不明

編成:オーボエ2、ホルン2、弦5部

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)

交響曲 第40番 ト短調 K.550

1788年夏に成立した3つの交響曲のうちの一つ。結果的にこれらは作曲者最後の交響曲となった。『全自作品目録』における日付は「7月25日」。クラリネットを持つ稿とない稿が残されたが、後者の成立時期は明確ではない。ウィーン時代の交響曲も作曲目的が分からず、初演など演奏記録も不明ないし明確ではない。だが、昨年にもモーツァルト生前のウィーンにおける交響曲の演奏を記録した当時の新聞記事(1789年、当時のウィーン副市長アウグスティのための演奏会について)が新たに発見され、作曲者自身が実際に88年の3曲を生前に聴くことはなかったという従来の定説はさらに否定されることとなった。

18世紀後半では短調を主調とする交響曲は非常に稀であった。モーツァルトも他には同じト短調の第25番(1773年)しか書いておらず、これは同時代のJ. ハイドンよりも少ない。この事実からも充分、特別な表現や効果を狙った作品と言えるだろうが、それ以上に風変わりな特徴が目白押しである。

第1楽章(2/2のモルト・アレグロ)はこの主題弱音で主要主題の主旋律がヴァイオリンに現れる。K.201の項でも触れた「弦楽合奏のみの弱音で開始」の希少な事例の一つである。K.201と同様にトゥッティのフォルテが後で現れるのだが、興味深いことに最初のフォルテは主和音どころか、強烈な不協和音で打ち付

けられる。しかも、この強弱の激しいコントラストに先立って、先述の主旋律が流れ出す前に伴奏形が先行するのである。このような開始は18世紀後半の交響曲では極めて稀であった。第2楽章(6/8のアンダンテ、変ホ長調)の主要主題は一つの声部が主旋律を担うのではなく、各声部の合わせ技で一つの旋律が浮かび上がるというかたちを採っているのが珍しい。第3楽章はメヌエット楽章には似つかわしくない3小節フレーズが現れる主部に対し、ト長調に転じるトリオは作品全体の束の間の光明と言えるだろう。第4楽章(2/2のアレグロ・アッサイ)は弱音開始ながら1オクターヴ以上の音域を駆使する主要主題、大胆かつ周到な転調で最も遠隔な嬰ハ短調にまで到達してしまう展開部など、極めて前衛的な表現に満ちている。

安田和信 Text by YASUDA Kazunobu

作曲:『全自作品目録』における日付は1788年の「7月25日」

初演:不明。しかしモーツァルト生前、彼の新作の交響曲を取り上げた演奏会の記録はある

編成:フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、弦5部

8/22 8/23

SAT

SUN

第744回 定期演奏会

2026年8月22日(土) 18:00 サントリーホール

Subscription Concert No.744

Sat. 22nd August 2026, 18:00 Suntory Hall

川崎定期演奏会 第106回

2026年8月23日(日) 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

Kawasaki Subscription Concert No.106

Sun. 23rd August 2026, 14:00 Muza Kawasaki Symphony Hall

ピエール・ブリュース [指揮]

角野隼斗[ピアノ]

景山昌太郎[コンサートマスター]

Pierre BLEUSE, Conductor

SUMINO Hayato, Piano

KAGEYAMA Shotaro, Concertmaster

角野隼斗:ピアノとオーケストラのための
《無我》(世界初演)(10')

SUMINO : Muga for Piano and Orchestra
(World Premiere) (10')

カプースチン:ピアノ協奏曲 第4番
op.56(25')
ドラムス:高橋信之介

KAPUSTIN : Piano Concerto No.4
op.56(25')
Drums:TAKAHASHI Shinnosuke

休憩(20')

Intermission (20')

ベルリオーズ:幻想交響曲 op.14(55')

- I.夢、情熱
- II.舞踏会
- III.野の風景
- IV.断頭台への行進
- V.魔女の夜宴の夢

BERLIOZ : Symphonie Fantastique op.14 (55')

- I. Rêveries, Passions
- II. Un Bal
- III. Scène aux Champs
- IV. Marche au Supplice
- V. Songe d'une Nuit du Sabbat

- 主催/公益財団法人東京交響楽団
- 助成/文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会
- 協力/ミューザ川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ)(8/23)
- 後援/川崎市(8/23)、「音楽のまち・かわさき」推進協議会(8/23)

楽曲解説はP.11をご覧ください



MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL



アンケート
ご協力をお願い



©marine pierrot detry

Pierre BLEUSE

Conductor

ピエール・
ブリュース
[指揮]

フィンランドでヨルマ・パヌラに、ジュネーヴ高等音楽院でローラン・ガイに師事。アンサンブル・アンテルコンタンポランおよびオーデンセ交響楽団音楽監督、プラドのパブロ・カザルス音楽祭芸術監督。フランスを代表する実力派指揮者として、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、BBC響、パリ管、フランス国立管、東京交響楽団、シンガポール響など、世界各地の主要オーケストラと共演を重ねている。

2025/26シーズンは、BBCプロムスでのアンサンブル・アンテルコンタンポランとの公演で幕を開け、スウェーデン放送響、フィンランド放送響、北ドイツ放送エルプフィルハーモニー管、SWR響、オーケランド・フィルなど数々の名門楽団へ客演。現代音楽の分野でも高い評価を受け、2024年にはバルセロナ・リセウ大劇場でエクトル・パラのオペラ《オルギア》を指揮、2025年にはフィルハーモニー・ド・パリでブーレーズ生誕100周年記念公演《レボン》を指揮する。アンサンブル・アンテルコンタンポランとのリゲティ作品集は、2025年ディアパゾン・ドール年間賞を受賞。

Pierre Bleuse is Music Director of Ensemble intercontemporain and the Odense Symphony Orchestra, a position he has held since 2021, and Artistic Director of the Pablo Casals Festival in Prades. Recognized as one of France's leading conductors, he regularly collaborates with major orchestras including the Royal Concertgebouw Orchestra, BBC Symphony Orchestra, Orchestre de Paris, Orchestre National de France, Tokyo Symphony Orchestra, and Singapore Symphony Orchestra.

Highlights of his 2025/26 season include appearances at the BBC Proms, the Ravel Festival in Saint-Jean-de-Luz, and the Philharmonie de Paris, alongside debuts with the Swedish Radio Symphony Orchestra, Finnish Radio Symphony Orchestra, NDR Elbphilharmonie Orchester, SWR Symphonieorchester Stuttgart, and Auckland Philharmonia Orchestra.

A prominent advocate of contemporary music, Bleuse conducted Hèctor Parra's opera *Orgia* at Barcelona's Gran Teatre del Liceu in 2024 and will lead Pierre Boulez's *Répons* at the Philharmonie de Paris in 2025 as part of the composer's centenary celebrations. His recording of Ligeti works with Ensemble intercontemporain received the 2025 Diapason d'Or de l'année. He studied conducting with Jorma Panula and Laurent Gay.

8/22 8/23

SAT

SUN



©Johanna Berghorn

SUMINO Hayato

Piano

角野隼斗
[ピアノ]

2018年ピティナ特級グランプリ、2021年ショパン国際ピアノコンクールセミファイナリスト。これまでにフィラデルフィア管、ウィーン響、スカラ座フィル、シカゴ響、ロサンゼルスフィル、N響、読響などと共演。2024年ロイヤル・アルバート・ホールでのデビューを経て、2025年BBCプロムスに出演。同年、レナード・バーンスタイン賞、オーパス・クラシック賞(史上初2部門)を受賞。カーネギーホールやウィーン・コンツェルトハウスでの公演も成功を収める。2024年Sony Classicalと契約し、世界デビューアルバム『Human Universe』で日本ゴールドディスク大賞を受賞。2026年には最新作『Chopin Orbit』を発表し、全国ツアー(全16公演)を完売させた。東京大学大学院修了。2023年よりNYに拠点を移す。YouTubeでは「Cateen(かていん)」として活動し、登録者は157万人超。Kアリーナ横浜での公演は「屋内のソロピアノリサイタルで販売されたチケットの最多枚数」でギネス世界記録を樹立した。クラシックの技巧に加え、音楽を通じて国境や世代を越えたつながりを生み出す存在として、今後のさらなる飛躍が期待されている。

Pianist and composer Hayato Sumino redefines piano performance, captivating audiences worldwide with his vibrant artistry. Sharing his music as "Cateen" on YouTube, he has garnered over 1.57 million subscribers. Following his 2024 Royal Albert Hall debut, he achieved historic milestones, including a 2025 BBC Proms appearance and a Guinness World Record for the largest indoor solo piano recital by ticket sales at K Arena Yokohama. Sumino collaborates with renowned ensembles such as the Philadelphia Orchestra, Vienna Symphony, La Scala Philharmonic, Chicago Symphony, Los Angeles Philharmonic, and NHK Symphony Orchestra. In 2025, he won the Leonard Bernstein Award and made history claiming two Opus Klassik Awards. He successfully debuted at Carnegie Hall and the Vienna Konzerthaus in 2025/2026. A University of Tokyo graduate, he signed with Sony Classical in 2024. His acclaimed debut album Human Universe precedes his 2026 release Chopin Orbit and a sold-out Japan tour, cementing a globally unifying musical legacy.

角野隼斗(1995～)

ピアノとオーケストラのための《無我》(世界初演)

「無我」とは、弾いている自分が消えてしまう、その一点を音にしようとした作品である。深く没入したとき、ふと「自分が演奏している」という感覚そのものがほどけて、音だけが勝手に流れ出していく瞬間がある。感情を音に込めるのではない。自我を手放し、響きにただ身を委ねる — 東洋の思想が「無為」と呼んだ、力まずして成る状態に、それは限りなく近い。

曲は、相反する二つの主題を軸に進む。静けさのなかから立ち上がる気配と、強いパルスと共にうねりだす運動。やがてその対立を断ち切るように、一筋の風が吹き抜け、せめぎあう二つを止揚していく。

全体を貫くのは、4+4+3に分かれた11拍子(11/8)の脈動である。4でも3でもなく、割り切れないまま前へ流れ続けるこの拍は、どこにも安住しない — 留まろうとした瞬間には、すでに次へ移ろっている。固定された「私」がほどけていくさまを、リズムそのものに託した。ピアノとオーケストラは、独奏者と群衆として対峙するのではない。独奏のかたちはやがて全体のなかへ溶け、ふたたび立ち上がっては、また還っていく。静と動の、自己と世界の輪郭がゆらぐその往還のなかへ、ただ「無我」が立ち現れる。

角野隼斗 Text by SUMINO Hayato

作曲:2026年

初演:2026年8月22日

編成:独奏ピアノ、フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、大太鼓、小太鼓、ムチ、シンバル、トライアングル、グロッケンシュピール、マリimba、弦5部

8/22 8/23

SAT

SUN

ニコライ・カプースチン(1937~2020)

ピアノ協奏曲 第4番 op.56

カプースチンの全6曲のピアノ協奏曲はそれぞれ違った編成で書かれているが、それらの作品すべてに共通しているのはオーケストラの打楽器群の中にドラムセットが使用されていることだ。そのためホーンセクションが充実していたり、ギターやボンゴなどの珍しい楽器が加わることもある。その中でこの協奏曲は、弦五部にドラムセットとティンパニと木管楽器三本のみという比較的オーソドックスではあるもののユニークな楽器編成で書かれている。

この協奏曲は1990年に作曲され、その後ずっと演奏される機会に恵まれなかったが、2008年4月にL.アンゲロフのピアノ独奏によりスペインの二都市で初演された。その演奏が収録されてラジオ放送された(Radio Clasica)ことで世界に知られることになった。

作曲者自身がこの曲を作曲した後に語っていたのは、この協奏曲の構成がブラズノフのヴァイオリン協奏曲に非常によく似ているということである。確かにどちらの協奏曲にも共通しているのは、全体は単一楽章ではあるが、提示部と展開部の間に緩やかで抒情的なエピソードが挟まれており、その後ようやく再現部、そしてソロのカデンツァが続く。そしてその後に通常期待されるようなコーダではなく、この曲のフィナーレとも捉えられる大規模な終結部が始まるという構成にある。

曲の冒頭はアレグロ・モルト。独奏ピアノによって主要テーマが打楽器のビートに乗って提示され、その後ピアノは常に華やかなパッセージで曲を紡いでいく。提示部に穏やかで歌謡的なメロディも挟まれるが、冒頭のテーマが主役となってこの曲を牽引していく。その後にアンダンテで現れる独奏ピアノによる抒情的なエピソードは大きな第二主題と言っても良く、この曲の全体を形作る素晴らしく対照的なメロディだ。その印象的な旋律はやがてオーケストラと一体となって美しく奏でられていく。展開部でまた元の速いテンポに戻ると、独奏ピアノが中心的な役割を演じながら再現部へ、そしてソロのカデンツァへと一気に繋がっていく。それが終わると隙間なく大規模なロンド・ソナタ形式の終結部が独奏ピアノによって導かれる。前半で聴かれたいくつものメロディもこのロンドのテンポの中で現れ、オーケストラとともに圧巻のフィナーレという様相で曲を締めくくる。

川上昌裕 Text by KAWAKAMI Masahiro

作曲:1990年

初演:2008年4月3日カルタヘナ(スペイン)、リュドミル・アンゲロフ独奏、ホセ・ミゲル・ロディージャ指揮、ムルシア州交響楽団

編成:独奏ピアノ、フルート、オーボエ、クラリネット、ティンパニ、ドラムセット、弦5部

エクトル・ベルリオーズ(1803~1869)

幻想交響曲 op.14

この作品は、19世紀という時代に生を受けた一人の芸術家の、音による自伝である。

1827年9月11日、パリのオデオン座。英国から来仏した劇団によるシェイクスピア公演が行われ、その客席には、新たな芸術を打ち立てんと意気込む若きロマン主義者たちが詰めかけていた。狂気に陥るオフィーリアを巧みに演じた女優ハリエット・スミッソンに、皆が魅了された。当時23歳であった作曲家エクトル・ベルリオーズもその一人である。その日から数年にわたって、彼はこのミューズに恋焦がれ、報われぬ日々のなかで様々な感情を経験する。しかしそれはこの作曲家にとって、自己の内面に表現の源泉を探り、新たな響きの地平を拓く契機となった。そうして掘り取られた、陰翳に富み、ときに鮮烈な音響が、ひとつの作品として結晶化する——1830年、《幻想交響曲》の誕生である。

5つの楽章には、ベルリオーズ自身によって、同時代のロマン主義文学から着想されたタイトルと物語が付せられている。第1楽章は〈夢—情熱〉。序奏では、メランコリーに苛まれる主人公の青年のイメージが、哀愁を帯びた旋律によって形作られる。主部では、理想の女性との出逢いとそれによる心の揺れが、ソナタ形式の型を用いて表現される。その女性を表す旋律(=固定楽想)が、フルートとヴァイオリンで提示されると、それは断片化され、そして爆発的な喜びをもって再現される。第2楽章

は〈舞踏会〉。陶酔的なワルツのただなかでも、青年に付いて回る「固定楽想」。第3楽章は〈野の風景〉。牧人たちの歌を模したイングリッシュ・ホルンとオーボエの旋律に続いて、自作のミサ曲から転用された清澄な音楽が広がる。しかし「固定楽想」が不穏に鳴り響くと、世界は騒りを帯び始め、恋の希望を見失った彼の精神は静かに崩壊していく。第4楽章は〈断頭台への行進〉。絶望した青年は阿片をあり、奇怪な夢の世界に沈み込む。その女性を殺した罪で死刑に処せられることとなった彼は、いかめしく残忍な行進曲に合わせて、処刑台へと足をを進める。第5楽章は〈魔女の夜宴の夢〉。自我の深淵に渦巻く、さらなる悪夢。おぞましい化け物たち——そして化け物じみた醜悪な相貌に変わってしまった愛しいひと——に取り囲まれて、青年の葬儀が行われる。奇妙な響きの「固定楽想」、弔いの鐘、聖歌の流石的なパロディ。そして異形の者たちが繰り広げる輪舞が、地獄の光景を現前させる。

塚田花恵 Text by TSUKADA Hanae

作曲:1830年2月~4月

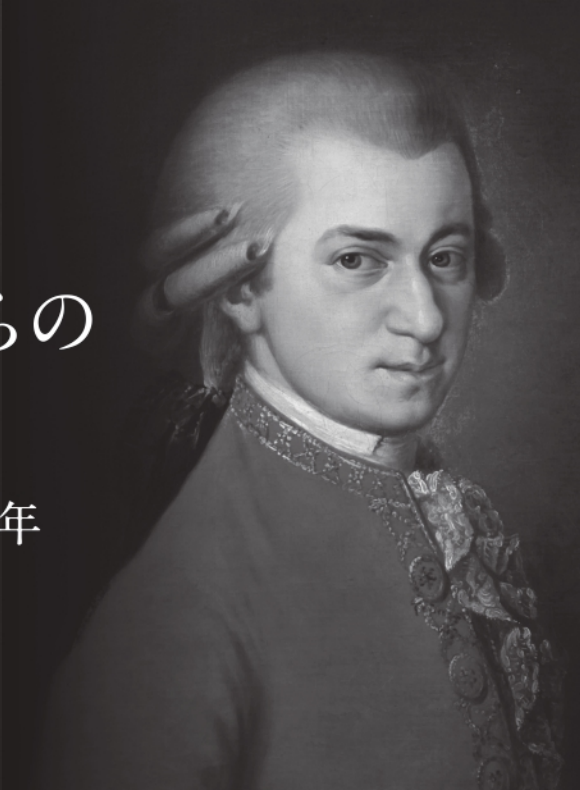
初演:1830年12月5日パリ音楽院ホール、フランソワ・アブ
ネック指揮

編成:フルート2(ピッコロ持替1)、オーボエ2(イングリッシュホルン持替1)、クラリネット2(小クラリネット持替1)、ファゴット4、ホルン4、トランペット2、ホルネット2、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ2、大太鼓、小太鼓、シンバル、ハープ2、弦5部、舞台裏オーボエ1、舞台裏鐘

使用人からの 脱出

モーツァルト生誕270年

野本由紀夫(元玉川大学教授)



今年はモーツァルトが生まれて270年である。モーツァルトといえば天才「芸術家」。でも本当にそうだったのか？

しばしば「ウィーン古典派」の偉人として、ほぼ15歳年下のベートーヴェンというしよに語られがちだ。しかし、ベートーヴェンが正真正銘の「音楽芸術家1号」だったとすれば、モーツァルトは「0号」と言えるかもしれない。なぜならモーツァルトは、収入源がベートーヴェンとはまるで違ったからである。

モーツァルトの生活実態は、貴族社会の「使用人」だった。次のページに年表を作成して載せておいたが、25歳(1781)のときウィーンに移住するまで、モーツァルトは故郷ザルツブルク宮廷の「使用人」であった。

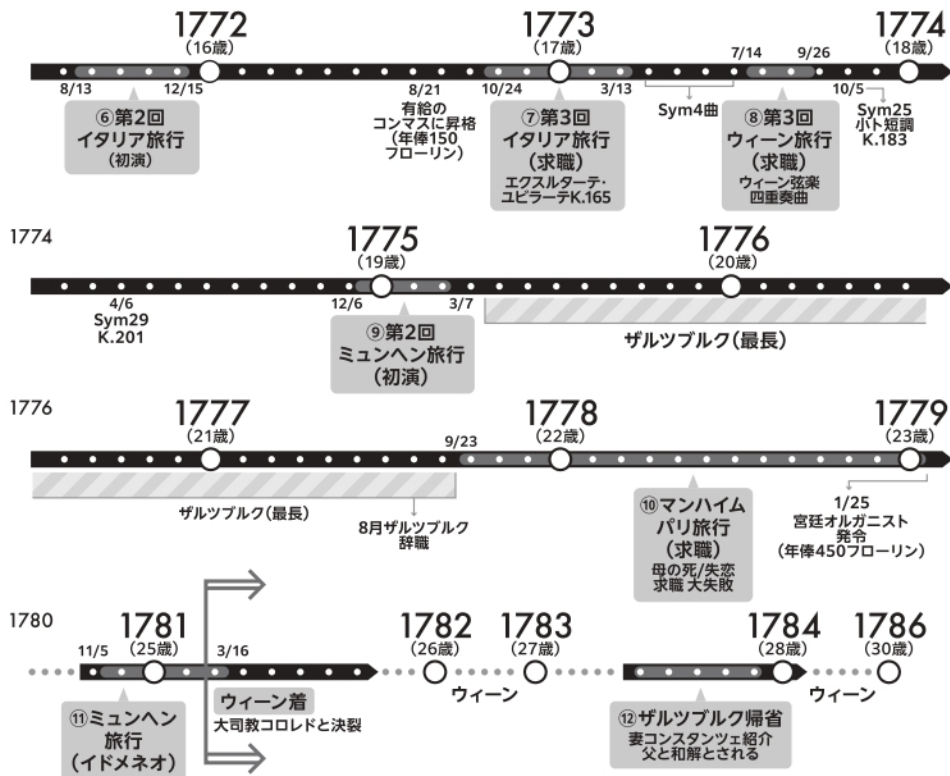
もちろん子供の頃は、父親レオポルトの扶養下にあった。レオポルトはザルツブルク大司教の宮廷楽師で、ヨーロッパ屈指

のヴァイオリン奏者として有名だった。モーツァルトは13歳の1769年11月14日、宮廷のコンサートマスターに任命されるが、そのときはまだ「無給」。定収入はゼロだった。

ちなみに、モーツァルトという「作曲家」というのは、今日のイメージだ。彼が生きていたころは、一流のヴァイオリニストでピアニストで、「作曲もする」音楽家とみなされていたはずである。

ようやく給料をもらえたのは、16歳になってから。1772年8月21日に有給のコンサートマスター(楽師長)に昇格したのだった。ちなみにそのときの年俸は150フローリン。当時の熟練大工と同じぐらいの収入であり、低く見積もって今日の70万円、いくら高く換算しても200万円ぐらいだった(彼のオペラ1作が450フローリン、ピアノ協奏曲1曲の委嘱料が75フローリンだった

Mozart(1756/1/27 Salzburg - 1791/12/5 Wien)



という記録がある)。

ギルツブルクは司教座の所在地であり、カトリック教会のなかではかなりの格上だったので、この年俸でも10代の少年には悪くはなかっただろう。しかし、そのような街の性格として、仕事の大半は教会音楽の演奏と作曲であり、ベネディクト派のギルツブルク大学の学校劇や修了式のためのセレナードの作曲も年中行事だった。

これではとても経済的に独り立ちできないし、家族も持てそうにもない。だからモーツァルトは「求職旅行」に出かける。35年の

生涯のうち、モーツァルトは17回も大旅行を行っているが(合計10年2か月余り)、そのうち3つは「求職旅行」なのである(年表の⑦⑧⑩)。16歳から17歳にかけての第3回イタリア旅行⑦では『エクスルターテ・ユビラート』K.165が作曲され、第3回ウィーン旅行⑧ではハイドン(1732~1809)の影響を受けた「ウィーン弦楽四重奏曲」が作曲された。

⑧の直後に、「小ト短調」交響曲K.183と本日演奏される第29番K.201が作曲されたわけだ。ウィーンで知ったハイドンの『太

使用人からの脱出 モーツァルト生誕270年

陽弦楽四重奏曲』に衝撃を受け、新たな交響曲の世界に踏み込んだのだろう。

とはいえ、帰郷後も給料は上がらず、⑨をはさみ2年半もザルツブルクでくすぶることになる。雇い主である大司教のコロレドは、知性と簡素さを重んじる「啓蒙主義」を信奉しており、ミサ典礼も合理的に時間短縮、フーガも省略、楽譜の繰り返し記号さえカットさせた。経費削減のため学校劇も廃止し、楽団も縮小して30名程度とした(弦楽器21名+管楽器10名)。

かくしてモーツァルトは本格的に転職を考えはじめ、ザルツブルクの職を辞し、1年半近くにおよぶ⑩マンハイム・パリ旅行を敢行する。マンハイムとパリは、当時世界一のレベルのオーケストラを抱える双璧だった。とくにマンハイムは、楽長の年俸が3,000フローリンと破格だった。パリではモーツァルトに同行した母親が客死、アロイジア・ウェーバー(のちの妻コンスタンツェの姉)にも失恋し、この就活旅行は大失敗に終わった。20歳を過ぎた「元神童」に、どの宮廷も興味を失っていたのである。

1779年1月、屈辱の帰郷後すぐ、モーツァルトは復職を願い出る。ところが発令されたのは宮廷オルガニストの職。年俸は450フローリンにアップしたものの、少年聖歌隊のクラヴィーア教師も兼務する、やはり「使用人」扱いの地位だった。

転機は突然訪れた。1781年3月16日、ミュンヘン滞在を経てウィーンに到着したモーツァルトは、大司教コロレドに呼び出されて大喧嘩。もともと折り合いが悪かつ

たが、「辞めてやる」と啖呵を切って飛び出した。25歳にしてモーツァルトは使用人から「自由の身」の音楽家、すなわち「芸術家」の先駆者となった。

ウィーンに移住した彼は、主として裕福な市民階級をターゲットとし、公開演奏会やピアノ・レッスン、自作品の楽譜販売で経済的自立を目指した。多いときは年収が4,000フローリンにも達していたというから、市立病院の院長クラスの稼ぎがあった。交響曲第40番を含む三大交響曲(第39~41番、1788)も、おそらくそうした市民相手の演奏会で収益をあげようと企画されたのだろう。

貴族社会から市民社会に時代が移り変わっていく、まさにその時期にモーツァルトはウィーンで生きた。1789年7月にはじまったフランス革命を、彼は果たしてどのような気持ちで眺めていたのだろうか。

彼が1784に入会したフリーメーソンの標語は「自由・平等・博愛」である。それはそのままフランス革命の標語になっていく。また、歌劇『フィガロの結婚』(1786年5月1日初演)の中心主題は、貴族社会への反発である。だから、フランス革命につながるような心の火種は確かにもっていたのだろう。しかしそれは、市民階級への「共感」どまりで、宮廷文化を破壊する「革命」まで望んでいたかどうかは、きわめて疑わしいのではないだろうか。

モーツァルトは、革命前夜の貴族社会に咲いた最後のあだ花だったのかもしれない。

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございました(7月20日現在、五十音順)。

ご
芳
名
(敬
称
略)

法
人
会
員

●プラチナ会員

株式会社ティー ワイ リミテッド	株式会社ドワンゴ
株式会社フェイス	

●ダイヤモンド会員

有限責任 あずさ監査法人	環境ステーション株式会社
株式会社伊藤総合事務所	株式会社すかいらくホールディングス
株式会社イノアックコーポレーション	株式会社日本財託
株式会社インサイド・アウト	株式会社パソナグループ
株式会社エイチ・アイ・エス	*株式会社モリモト

●ゴールド会員

株式会社青山メインランド	西松建設株式会社
株式会社あ佳音	株式会社NIPPO
オリエンタル酵母工業株式会社	株式会社日本M&Aセンター
サントリーホールディングス株式会社	ヒノキ新薬株式会社
社会医療法人財団石心会	司法書士法人ふなざき総合事務所
玉川学園・玉川大学	ミヨシ油脂株式会社
中外製薬株式会社	ヤマザキビスケット株式会社
株式会社TFDコーポレーション	ヤマト科学グループホールディングス
株式会社鉄鋼ビルディング	税理士法人WATANABE
株式会社トーションパートナーズ	

●シルバー会員

株式会社NHKビジネスクリエイト	月島食品工業株式会社
公益財団法人青梅佐藤財団	東京鐵鋼株式会社
川崎信用金庫	司法書士法人村田事務所
松竹株式会社	

●ブロンズ会員

アーティスト ホールディングス株式会社	ニッシンエレクトロ株式会社
株式会社ヴァリユーズ	*合同会社ハイム
*カトーレック株式会社	*株式会社BDA
NPO法人かわさき市民アカデミー	富士フィルムビジネス
株式会社シグマコミュニケーションズ	イノベーションジャパン株式会社
新宿村スタジオ	神奈川支社
*神宮前耳鼻咽喉科クリニック	前山歯科医院
有限会社青史堂印刷	株式会社LALLヒューマン ホールディングス

賛助企業

政鬼運輸株式会社	山崎製パン株式会社
----------	-----------

匿名3社

東京交響楽団サポート会員

東京交響楽団へご支援いただいている皆様です。心より感謝申し上げます。

*新会員の方です。ありがとうございます(7月20日現在。五十音順)。

●サークル50

伊藤 晴美	木暮 紀子
伊藤 美樹	清水 尚彦
沖田 陽子	山口 積恵
鷺海 量明	匿名 5名

●サークル25

荒木 陽子	手塚 和彦
猪田 隆文	戸川 二郎
井上 孝昭	長瀬 雅則
岡野 平山	智史 誠一郎
後藤 実	匿名 2名

●サークル10

天野 佳和	高田 光官
五十嵐 建平	麻子 幸一
井澤 菜緒子	高津 琢己
石川 晴依世	高野 高星
岩田 新	高家 田口
山内 誠彦	田中 忍
梅沢 麻衣	田中 忍
遠藤 秀和	田中 忍
大城 明幹	田中 忍
大崎 明子	田中 忍
大島 純子	田中 忍
太田 具幸	田中 忍
大塚 浩	田中 忍
岡 邦子	田中 忍
尾崎 茂	田中 忍
片山 泰輔	田中 忍
片山 千栄	田中 忍
金山 尚弘	田中 忍
金子 元	田中 忍
金田 好生	田中 忍
木賀 賢市	田中 忍
菊池 光剛	田中 忍
木内 正則	田中 忍
小林 光健	田中 忍
古丸 和喜夫	田中 忍
近藤 秀子	田中 忍
嘉藤 秀子	田中 忍
佐々木 真	田中 忍
近藤 利勝	田中 忍
野野 幹雄	田中 忍
清水 恭一	田中 忍
白井 信恵	田中 忍
鈴木 美貴子	田中 忍
高澤	田中 忍

●フレンズ5

東 恭代	大野 紀子
有江 純子	大野 和彦
石原 祥子	奥秋 雄一
潮田 伊織	河野 愛
大川 朋彦	小林 義彦

塩澤 誠司	中島 信男
高際 比呂志	早川 利郎
寺西 基之	松信 正志
中尾 守	村松 秀幸

山口 聡	山田 修造
山田 哲四郎	匿名 2名

●フレンズ3

秋山 真一郎	河野 太	根本 暢明
明田 重樹	小曾 孝	野島 秀太郎
荒 洋一	古杉 信因	濱田 尚人
石澤 卓志	井上 聡	林 美奈子
井上 正明	岩瀬 智代子	藤田 昭夫
大崎 純	大崎 悦子	藤野 栄
大塚 啓司	大塚 健司	藤野 盾臣
大塚 展男	大塚 元	藤野 一彦
大塚 昌資	大塚 良枝	藤野 正典
岡村 兵衛	岡村 和浩	藤野 拓郎
岡本 康恭	岡本 弘也	藤野 健治
小川 篤	小川 忠三	藤野 喧子
奥瀬 桂子	奥瀬 あゆみ	藤野 秀彰
奥瀬 夕里	奥瀬 美貴子	藤野 真平
奥瀬 明子	奥瀬 智広	藤野 喜義
奥瀬 修	奥瀬 博之	藤野 みお
奥瀬 政晴	奥瀬 元嗣	藤野 順
奥瀬 由美子	奥瀬 幸雄	藤野 宗孝
奥瀬 伸治	奥瀬 洋一	藤野 公彦
奥瀬 万裕	奥瀬 悦子	藤野 真紀子
奥瀬 光司	奥瀬 尚弘	藤野 美紗恵
奥瀬 一穂	奥瀬 研一	藤野 真理
奥瀬 博		藤野 Max Wong
		匿名 28名

●フレンズ1

■あ	猪瀬 正	大島 初彦
相磯 浩	今井 由紀夫	大島 康彦
赤塚 節恵	今井 邦男	大島 裕美子
秋元 淳志	今井 美知子	大島 賀久
朝倉 文男	今村 淳子	大塚 英司
浅里 郁夫	岩野 裕一	大塚 智弘
安達 郁夫	岩村 亮	大塚 由香
阿部 靖彦	岩本 豪	大塚 喜信
生田 利昭	*上田 洋子	大塚 慶裕
池田 弘毅	白居 正昭	大塚 幸吉
池田 由紀	白田 重男	大塚 節子
石川 幸一郎	内海 誠	大塚 京子
磯村 幸一	内山 正芳	大塚 浩一
井手 泰宏	梅里 拓志	大塚 正道
伊藤 勉	梅崎 耕司	大塚 美穂
伊藤 宗功	梅原 秀元	大塚 明徳
伊藤 力雄	梅本 千枝子	大塚 勝利
稲垣 貴代	江藤 祐子	大塚 幾子
稲葉 順一	江藤 雄彦	大塚 徹
井上 聖恵	大泉 成美	大塚 知子
*井上 恵介	大泉 剛	大塚 和歌子
井上 康子	大泉 亮子	大塚 美子
	大泉 亮子	大塚 美子

奥貫 史 佐々木 基
 村 克彦 香 幸子
 小倉 茂 俊文 勝 一郎
 小澤 雅 俊 大助
 小名 惠 信也 深雪
 小野 信也 英樹 純二
 小野 塚 美和
 尾野 美和
 ■か 海藤 慶子
 香南 大樹
 角山 美知子
 方波 見 和雄
 葛城 伸 聖隆
 加藤 洋子
 加藤 洋子
 川上 真理
 川口 善行
 川名 康一
 川野 安子
 菅野 広和
 菅野 雄平
 岸本 裕子
 北野 雅子
 北村 眞 泰子
 木下 亮平
 木村 好一
 木村 強 富士子
 木村 正 理子
 清田 宏樹
 久保 潔 健治
 倉谷 原 里美
 小糸 国府 保周
 国府 小寺 駿乃祐
 小西 淳 敬四郎
 小沼 恭二
 小林 光一
 *小林 秀夫
 小林 秀樹
 小林 宏州
 近内 浩
 近内 光一
 近内 友吏子
 後藤 敏秋
 後藤 裕二
 ■さ 齊木 一宏
 齊藤 ひろ子
 齋藤 博
 酒井 典子
 坂本 タカ子
 前刀 禎明
 櫻井 智仁
 桜林 哲生
 佐々木 通博

佐々木 基
 佐藤 香 幸子
 佐藤 勝 一郎
 佐藤 俊 大助
 佐藤 深雪
 佐藤 美和子
 佐藤 由紀子
 佐藤 瞳 俊郎
 佐藤 宗太
 佐藤 一朗
 佐藤 柴橋 朋子
 佐藤 洪川 宏明
 嶋谷 知里
 清水 重夫
 志村 和代
 下田 一彦
 庄司 大 ひろみ
 白石 新藤
 杉山 啓次
 杉山 慎二
 鈴木 慶子
 鈴木 啓介
 鈴木 康史
 鈴木 孝治
 鈴木 隆之
 鈴木 月穂
 鈴木 智和
 鈴木 眞理子
 須田 ミミ
 *須田 沼 幸恵
 須田 達 穂名美
 清水 洋
 関口 あずみ
 ■た 高岡 美保
 高岡 一茂
 高岡 和敏
 高岡 敏和
 高岡 晴彦
 高野 洋二
 高橋 嗣奈子
 高橋 美穂
 高橋 有一
 高橋 ユリコ
 高橋 里奈
 高松 則雄
 高村 勝仁
 高森 幸男
 竹内 聖子
 竹内 眞也
 竹内 みお
 竹内 電太
 武尾 和彦
 竹腰 正隆

竹下 裕行
 武田 和子
 田代 智子
 田島 遼太郎
 多田 泰三
 田中 敬子
 田中 恒美
 田永 禎二
 田邊 鈴恵
 田端 泰弘
 田淵 正浩
 玉井 晴久
 千田 絵里
 千葉 和男
 塚田 寛
 塚田 玲子
 築館 直浩
 辻 牧子
 辻内 洋一
 坪井 治男
 寺田 淳夫
 遠山 明史
 登原 祥悟
 柄森 肇生
 豊島 順子
 鳥居 夕紀夫
 ■な 中沢 忠
 *中村 紀美子
 長瀬 利明
 永田 郁子
 長濱 通子
 西岡 直美
 西岡 昌紀
 西川 晶
 西中 淑子
 西村 眞
 西村 陽子
 西山 英昭
 根本 直之
 野口 信弘
 野口 紀一
 野村 成眞澄
 ■は 橋爪 千鶴子
 橋本 和雄
 橋本 恵人
 長谷川 寿一
 長谷川 博
 秦 実
 早川 明男
 林 博子
 林本 秀範
 原 ひとみ
 *原 正道
 原田 容子
 春川 裕
 半谷 方枝
 坂東 泰子

肥後 恵子
 榎谷 亜樹
 廣岡 眞由美
 廣瀬 泰文
 廣中 直行
 深沢 茂美
 藤生 容子
 藤原 正之
 古市 文子
 古川 雄二
 古屋 郁子
 文 清敏
 星 直樹
 細川 由利子
 堀川 信子
 本多 眞世
 ■ま 眞木 太郎
 幕田 正司
 樹井 明
 升元 美和
 松浦 和弘
 松岡 秀樹
 松崎 圭子
 松澤 聡
 松本 繁
 松本 純弘
 水野 弘
 水谷 晴彦
 三田 純子
 峯岸 恭博
 宮川 悦子
 宮坂 健司
 宮崎 哲
 宮崎 信夫
 宮寺 昇
 宮本 好江
 向尾 三男
 村上 誠司
 村上 泰大
 村本 信幸
 森 京子
 森 里美
 森島 政和
 ■や 柳沼 美智子
 安永 優子
 柳本 友幸
 山縣 裕児
 山岸 勇一郎
 山口 男一郎
 山崎 由美子
 山本 恵子
 山本 博
 湯川 俊明
 横田 初恵
 吉居 秀修
 吉江 健志
 吉岡 眞紀子
 吉田 暢子
 吉田 裕
 吉富 美紀
 吉見 享

吉見 幸子
 米田 徹
 米田 光
 米村 恵子
 米谷 由起子

■わ 渡辺 敦郎
 *渡邊 磨
 渡邊 朋子
 T.Saito
 匿名158名

■栄誉会員

ヨーコ・ナガエ・チェスキーナ

遺贈・相続ご寄付(敬称略)

竹内 容子 岡橋 純男
 齊藤公治 岡橋 孜
 メモリアル基金

法人定期会員

【定期演奏会】

東京コンテナ工業株式会社

【東京オペラシティシリーズ】

SATO社会保険労務士法人



特別後援会員制度のご案内

当楽団では公演の1営業日前までにご欠席の連絡をくださった方には、入場券代はお返し致しませんが、特別後援会員として1年間定期公演のプログラムにお名前を掲載させていただきます。当団主催公演の入場券を5%引き(TOKYO SYMPHONY チケットセンター扱いのみ)にてお求めいただけます。お求めの際に特別後援会員であることをお申し出ください。なお、対象となる演奏会は当団が指定する主催公演です。

関根 三善 藤井 照子
 小倉 茂 松永 勝宏
 都築 豊 森山 雅一郎
 坪井 洋一 匿名18名
 東 由美子 (敬称略)

ご連絡はTOKYO SYMPHONY チケットセンター
 044-520-1511へお電話をお願いいたします。

東京交響楽団サポート会員制度

東京交響楽団は、一流指揮者の招聘やチャレンジングなプログラミングによる定期演奏会の充実、次世代を担う子供たちの育成等、これまで以上に積極的な演奏活動を展開し、音楽文化の向上に努めて参ります。

そのために不可欠な運営基盤の強化のため、広くご支援をお願いしております。みなさまのご入会を心よりお待ちしております。

個人会員

フレンズ1 年額1万円～29,999円	フレンズ3 年額3万円～49,999円	フレンズ5 年額5万円～99,999円
サークル10 年額10万円～249,999円	サークル25 年額25万円～499,999円	サークル50 年額50万円～

法人会員

東京交響楽団とのパートナーシップは、御社のイメージアップにつながるだけでなく、従業員の皆様の福利厚生にもつながります。

ブロンズ 年額10万円～	シルバー 年額30万円～	ゴールド 年額50万円～	ダイヤモンド 年額100万円～	プラチナ 年額1000万円～
------------------------	------------------------	------------------------	---------------------------	--------------------------

会員特典

詳細はHP、
又はお電話でお問合せ下さい

	法人会員	サークル会員	フレンズ会員		
			フレンズ5	フレンズ3	フレンズ1
主催公演へご案内	○	○			
ゲネプロ見学会(年3回以上)	○	○	○	○	
リハーサル見学会(年3回以上)	○	○	○	○	○
ご芳名掲載	○	○	○	○	○
主催公演チケット先行予約 ^{*1}	○	○	○	○	○
公演チケットをご優待価格にてご案内 ^{*2}	○	○	○	○	○

^{*1} 一部対象外もございます。^{*2} 東京交響楽団の主催公演およびミュージアム川崎シンフォニーホール主催公演が対象です。一部対象外もございます。

税制上の優遇措置について

東京交響楽団は内閣府より公益財団法人の認定を受けており、当楽団への御寄附には税制上の優遇措置が施されます。

◎個人の場合:「寄附金額から2,000円引いた金額」の40%^{*2}について、税金(所得税・個人住民税)を控除されます。

また相続税にも控除が適用されます。

◎法人の場合:「損金算入限度額」が一定の算式に従い、拡大されます。^{*3}

^{*3} 但し、各該当法令で定められた限度があります。

その他、マッチングギフトやご遺贈、相続ご寄付についてもご案内させていただいております。

公式サイトからクレジットカードでサポート会員にご入会(ご寄付)いただけます。

<http://tokyosymphony.jp/support/procedures.html>



サポート会員へのご入会・お問合せ TEL 044-520-1518

公益財団法人東京交響楽団川崎オフィス 支援開拓本部 E-mail supporters@tokyosymphony.com

仲間と響きを育むチェリスト

渡邊 ゆかり

WATANABE Yukari

[チェロ奏者]2024年11月入団

趣味: コーヒー、カフェ巡り、ピラティス



©N. Ikegami

チェロとともに歩んだ日々

母がピアノ、姉がヴァイオリンを学んでおり、父もブルースなどの音楽が大好きだったことから、幼い頃より音楽は身近な存在でした。姉が所属していたジュニアオーケストラの練習によくついて行き、団員の皆さんに遊んでもらいながら過ごすうちに、自然とオーケストラの世界に親しむようになりました。実は、当時姉が出場したコンクールの応援に母と行った際、ソロ首席の伊藤文嗣さんも同じコンクールに出場していらっしゃいました。伊藤さんの演奏に感動した母の勧めもあって、7歳でチェロを始め、9歳で姉と同じジュニアオーケストラに入団。中学1年生の頃、ソロに専念するために一度退団しましたが、高校生になって再びジュニアオーケストラに入団しました。

高校3年生のとき、指導に来ていた先生方による演奏会を聴いたことが転機でした。その演奏に強く心を動かされ、プロのオーケストラ奏者への憧れを抱き、東京音楽大学へ進学しました。大学では室内楽を初めて本格的に学び、仲間たちから刺激を受けながら充実した学生生活を送りました。また、演奏技術だけでなく身体の使い方や音楽との向き合い方、特にリラックスすることの大切さについても多くを学び、現在の演奏活動にも活かしています。

卒業後は桐朋オーケストラ・アカデミーに所属し、プロのオーケストラの一員になるという思いをさらに強くしました。特に印象に残っているのは、R.シュトラウス《メタモルフォーゼン23の独奏弦楽器のための習作》です。バイエルン放送交響楽団の首席奏者らと共演した経験

は、大きな刺激となりました。

それぞれの音が重なって

入団前にエキストラとして参加させていただいていた頃から、声をかけてくださる楽員皆さんの自由さと温かさが印象的でした。

入団後も音楽的な疑問を相談しやすく、セクション全体で共有しながら音楽を作り上げていく一体感に魅力を感じています。また、伊藤さん(ソロ首席)から「セクションで一つの音を作るためには、それぞれが自分の音と役割を持つことが大切」と教わりました。積極的に自分を表現することが得意ではない私にとって、その言葉は大きな指針となっており、東京交響楽団の一員として常に心掛けていることでもあります。

休日の楽しみ

休日は自宅でコーヒーを淹れて過ごす時間を楽しんでいます。さまざまな豆を試すのが好きで、最近は特にエチオピア・イルガチエフェ産の豆がお気に入りです。おしゃれなカフェを探すことも楽しみの一つです。また、最近はピラティスにも取り組み、心身のリフレッシュに役立っています。



幼少期、姉とヴァイオリンを弾いているところ

インタビュー: 事務局

NEWS & TOPICS

ぶらあぼONLINEにて、N響×東響 特別対談 シュミット：オラトリオ「7つの封印の書」



詳細は
東響公式サイトから

今秋、上演機会の少ない同曲を、わずか1週間違いで取り上げるNHK交響楽団と、東京交響楽団。このたび、N響芸術主幹 西川彰一さんと当団楽団長 廣岡克隆の対談が実現しました。ぶらあぼONLINEにて掲載中です。是非ご覧ください。



東京交響楽団のライブ収録CD、発売決定！

原田慶太楼&東京交響楽団のライブ収録CDが発売となります。

芥川也寸志：交響曲 第1番
ショスタコーヴィチ：交響曲 第5番 二短調 op.47
録音：(芥川也寸志)
2025年12月2日東京オペラシティコンサートホール
(ショスタコーヴィチ)
2026年3月28日サントリーホール
税抜価格：3,500円／2026年8月19日発売



学校巡回公演レポート

東京交響楽団は、文化庁の舞台芸術等総合支援事業として、毎年全国の中学校で演奏活動を行っています。

体育館で全校生徒のみなさんにオーケストラの演奏をお聞きいただき、指揮者体験コーナーやオーケストラの演奏に合わせた合唱などもお楽しみいただきました。

当団では、若い世代の皆さまを対象として、定期会員券や当日券を通常価格よりお得にご購入いただけるサービスをご案内しております。詳細は公式サイトにてご確認ください。



子ども無料招待 クリスマスコンサートにご招待します

東京交響楽団では、文化庁「劇場・音楽堂等における子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」の一環として、クリスマスコンサートに18歳以下の皆さまをご招待いたします。
若い世代の皆さまのご来場を、楽団員一同心よりお待ちしております。

对象公演

2026年12月25日(金)14:00横浜みなとみらいホール
クリスマスコンサート2026

对象

2008年4月2日
～2020年4月1日生まれの方2名様まで



[詳細はこちら](#)

募集人数

先着約200名様

申込方法

各公演の「申込フォーム」よりお申込みください
(先着順・定員になり次第締切)。

同伴者

※別途送料・払込手数料がかかります。

ご注意

詳細はこちらご来場時に年齢確認書類(学生証可)の提示が必要です。
お申込みはご本人のみ有効(譲渡不可)。
詳細・最新情報は東京交響楽団ウェブサイトにてご確認ください。



マエストロシート マエストロが青少年のみなさまをご招待します

定期演奏会・川崎定期演奏会・東京オペラシティ
シリーズの各演奏会へ、小学生以上18歳以下の青
少年の皆様をご招待(5組10名)しています。演奏会終
了後にはマエストロの楽屋を訪問し、記念撮影な
どを行います。

【対象公演】定期演奏会/川崎定期演奏会/東京オペラシティシリーズ

【対象】小学生・中学生・高校生(18歳以下)
詳細は楽団公式サイトにてご覧ください。



NEXT PROGRAM

9/13 東京オペラシティシリーズ 第152回
SUN 14:00 東京オペラシティコンサートホール

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ

スッペ:喜歌劇「詩人と農夫」から序曲
モーツァルト:交響曲 第38番「プラハ」
シューベルト:交響曲 第2番

S¥8,500 A¥6,500 B¥4,500 C¥3,500



©Tamoko Hidaki

9/19 第745回 定期演奏会
SAT (東京交響楽団創立80周年記念)
18:00 サントリーホール

指揮:ロレンツォ・ヴィオッティ

テノール(ヨハネ):マキシミアン・シュミット
バス(神の声):フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ
ソプラノ:クリスティーナ・ランツハマー
メゾソプラノ:カトリオーナ・モリソン
テノール:パトリック・グラール
バスバリトン:クレシミル・ストラジャナツツ
オルガン:大木麻理、合唱:東響コーラス
合唱指揮:富平恭平

シュミット:オラトリオ「7つの封印の書」

S¥16,000 A¥13,000 B¥10,000 C¥8,000

9/21 オラトリオ「7つの封印の書」
MON 14:00 ミューザ川崎シンフォニーホール



©T.Tairadate

9/27 第148回 新潟定期演奏会
SUN 17:00 リゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館コンサートホール

指揮:ユベール・スダーン

ピアノ:アレクサンドラ・ドウガン

メンデルスゾーン:序曲「フィンガルの洞窟」
ショパン:ピアノ協奏曲 第2番
メンデルスゾーン:交響曲 第4番「イタリア」

S¥7,500 A¥6,000 B¥4,500 C¥3,000 D¥2,000



TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 (平日10:00 ~ 18:00 /土日祝休)

リゅーとぴあチケット専用ダイヤル 025-224-5521 (平日10:00 ~ 17:00 /休館日除く)

オラトリオ 「7つの封印の書」特設サイト

「2分でわかる「7つの封印の書」シリーズ(全7回)」「出演者インタビュー」ほか、公演をよりお楽しみいただけるコンテンツを続々配信中!みなさまぜひご覧ください。



フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ
(神の声役)



マキシミアン・シュミット
(ヨハネ役)



特設サイトはこちらの
QRコードからご覧ください



東京交響楽団

川崎市フランチャイズオーケストラ
新潟市準フランチャイズオーケストラ



公式サイト <https://tokyosymphony.jp>



1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称し、現在に至る。現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミューザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ59都市83公演を開催。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取り組みも音楽界をリードしており、2020年ニコン生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集めている。特に、2022年よりスタートした「R. シュトラウス コンサートオペラシリーズ」は、音楽の友談「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出されるなど大絶賛を博した。

桂冠指揮者にユベール・スダーン、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。

2026年4月よりロレンツォ・ヴィオッティが第4代音楽監督に就任。

Founded in 1946 as the Toho Symphony Orchestra, the ensemble adopted its current name, the Tokyo Symphony Orchestra, in 1951. It presents subscription concerts at Suntory Hall, Muza Kawasaki Symphony Hall, and Tokyo Opera City Concert Hall, and has received nearly all major music awards in Japan, including the Minister of Education Award. In addition to serving as the resident orchestra of the New National Theatre, Tokyo, the orchestra is actively engaged in collaborations with local governments such as Kawasaki City and Niigata City, as well as in a wide range of community and educational programs, including the "Kodomo Subscription Concerts" and Kids Programme ~Orchestra Experience from the age of "0 years". Its international activities, including performances at the Musikverein in Vienna and the "Asia Project," have also attracted considerable attention.

The orchestra has further distinguished itself as a leader in digital innovation within the classical music world, being the first Japanese orchestra to launch a music and video streaming subscription service, as well as introducing VR orchestra experiences and electronic ticketing. In 2020, a live-streamed concert without an audience on the Nico Nico Live platform drew approximately 200,000 viewers, and in December 2022, its performance of Beethoven's Symphony No. 9—filmed with a record 45 cameras—garnered widespread attention.

In recent years, the orchestra has attracted significant attention as one of Japan's leading orchestras. In Ongaku no Tomo magazine's "Top 10 Concerts," Salome (2022) was ranked second, followed by Elektra (2023), which was ranked first. The third and final of the project, Der Rosenkavalier (December 2024), also received outstanding critical acclaim.

Lorenzo Viotti becomes 4th Music Director in April 2026.

マエストロ・シート

【5組10名の小・中・高校生無料ご招待】



NICO NICO TOKYO SYMPHONY
ニコニコ東京交響楽団



音楽・動画配信サイト「TSO MUSIC & VIDEO SUBSCRIPTION」
1か月550円(税込)



TOKYO SYMPHONY ORCHESTRA MONTHLY CONCERT BROCHURE

Symphony

Symphony 2026年(令和8年)8月号[非売品]

発行 公益財団法人東京交響楽団

〒169-0073 東京都新宿区百人町2-23-5 TEL 03-3362-6764

<川崎オフィス>

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミューザ川崎セントラルタワー 5階 TEL 044-520-1518

Art Direction & Design : Be.To Bears 印刷 : NHKビジネスクリエイト

このプログラムは見やすさ・読みやすさに配慮した
ユニバーサル・デザインフォントを使用しております。